

どの程度の大きさであり、どのような変化をするのかを明らかにし、オプティカルファイバグラスの品質向上の一助としたいと考えている。

5. おわりに

本研究では小片試料を用いる弾性定数及び内部摩擦自動測定装置として、立方体共振法に適した計測システムを組立てると共に、計算機を用いて解析する方法を確立した。その結果mm単位の小片でも充分精度良く弾性定数及び内部摩擦の温度変化を測定出来ることを確かめた。

文 献

- 1) 曾我直弘, “弾性の性質”, ガラスハンドブック, 朝倉書店, 664 (1975)
- 2) H. H. Demarest, *J. Acoustical Society of America* **49**, 768 (1971)
- 3) I. Ohno, *J. Phys. Earth* **24**, 355 (1976)
- 4) 岡野和之, 那須弘之, 大田陸夫, 曾我直弘, 窯協3支部講演要旨集, 21頁(1979)
- 5) S. Spinner, *J. Am. Ceram. Soc.* **39**, 113 (1956)
- 6) W. A. Zdaniewski, G. E. Rindone and D. E. Day, *J. Material Sci.* **14**, 763 (1979)

【会員の頁】

★第7回国際熱分析会議(7th ICTA)

前号でもお知らせしましたとおり, 7th ICTA が1982年8月22日~28日にカナダのOntarioで開催されます。参加希望者は1st Circularに同封された質問カードに記入の上, 1981年6月15日までに

Dr. D. W. Brazier
Dunlop Research Centre
Sheridan Park Research Community
Mississauga, Ontario, Canada
L5K 1Z8

に回答する必要があります。詳細と登録規程を掲載した2nd Circularはこの回答者にのみ, 1981年9月頃に送られる予定です。

なお, 発表は口頭およびポスターにより行なわれますが, 発表希望者は1ページのアブストラクトを9月1日までに下記宛お送り下さい。

Dr. P. K. Gallagher
Room 6D-311
Bell Laboratories
600 Mountain Avenue
Murray Hill, N.J. 07974
U.S.A.

1st Circular をご希望の方は学会事務局にお申し込み下さい。

★第2回ヨーロッパ熱分析シンポジウム(ESTA2)

本誌Vol.7, No.4(1980)で予告されたESTA2が1981年9月1日~4日, スコットランドのAberdeenで開催されます。2nd Circularには発表論文リストと登録用紙が同封されていますが, 参加登録期限は5月31日で, 送付先は下記のとおりです。

Dr. F. P. Glasser
Chairman of the Organising Committee ESTA 2
Department of Chemistry
University of Aberdeen
Meston Walk, Old Aberdeen, AB9 2UE
SCOTLAND

詳細は学会事務局にお問い合わせ下さい。

(以上 東工大 斎藤安俊)